

2017年度活動報告〈東日本大震災 被災地での学習支援活動〉

2017. 6. 17 ●タダゼミ (NPO 法人キッズドア 以下同) 説明会参加

2017年度の活動開始にあたり、保護者と生徒を対象にした「タダゼミ説明会」に参加しました。河合塾として今年も支援させていただくことのご挨拶し、続いて講演を行いました。

・「内申点アップのためにすべきこと」と「高校受験で成功するための心構え」について講演

⇒保護者、生徒ともにメモを取りながら真剣に聞いてくれました。前向きに取り組もうという姿勢を目の当たりにし、こちらも精一杯支援しようという心を新たにしました。

●キッズドアとの打ち合わせ

・河合塾の活動メンバーとNPOスタッフが意見交換・活動方針を確認

⇒被災家庭・母子家庭等、経済的に困窮して生活保護を受給している家庭の中学生は、今でも少なくないことを実感しました。そして、貧困の連鎖を防ぐための教育復興こそが、真の復興につながるとの考えを共有しました。

公教育以外の学習の機会がない生徒であっても、めざす県立高校に確実に合格できるような指導をし、方向性の認識が一致しました。

中学生の志望校合格に向けた今年度の指導方針を確認し、河合塾の本業の強みを活かした活動がさらに求められていると実感しました。

2017. 7. 9 ●タダゼミ支援

・中学生に対し、英語・数学・社会の授業を実施

⇒初回の授業ということもあって生徒は緊張していましたが、分かりやすい授業に満足し、充実した一日となりました。

河合塾の授業を大学生が見学し、大学生の授業を河合塾講師がアドバイスするといった、研修にもつながる活動でした。

2017. 9. 10 ●タダゼミ支援

・中学生に対し、英語・数学・理科・社会の授業を実施

⇒夏を過ぎ、いよいよ受験勉強を本格的に始める気持ちが生徒たちの心に芽生えてきて、真剣に吸収しようという姿勢が強くなってきました。

どの教科も受験における重要単元を扱い、その後の学習に活かせる内容の授業に満足していました。

大学生も授業を見学し、指導の仕方を学ぶことができました。

2017. 10. 7 ●タダゼミ支援

- ・中学生に対し、英語の授業を実施

⇒文法的に難しい単元をわかりやすく授業し、つまずきの解消に役立ちました。

大学生の授業を河合塾講師が見学して、その指導法についてアドバイスし、限られた時間で効果の上がる授業のしかたのポイントが伝わりました。

2017. 11. 9 ●タダゼミ支援

- ・中学生に対し、数学・国語の授業を実施

⇒数学は「証明問題の解き方」を扱い、国語は「模試の解説」を行いました。

この時期には、生徒の意識が得点力を上げることに向かっていました。

受験勉強が大詰めを迎え、より実戦的な内容の授業となりました。

2017. 12. 24 ●タダゼミ支援

- ・中学生に対し、冬期講習における数学の授業を実施

⇒学生が授業しづらい「場合の数・確率」の実戦的な授業を行い、今まであやふやであった分野が得点につなげるところまで理解できました。

- ・国語が苦手な生徒に対し、個別指導を実施

⇒国語の得点の底上げのため、どのように文章を読めばよいのか、知識分野での得点方法などを個別に指導しました。

●キッズドアとの打ち合わせ

- ・追い込み時期における留意点を打ち合わせ実施

⇒限られた回数で効果の上がる指導内容について話し合い、今後の指導の方向性が決まりました。

2018. 1. 14 ●タダゼミ支援

- ・中学生に対し、英語の授業を実施

⇒「模試の解説授業」を実施し、得点できるはずの問題での失点や、自分の弱点がどこにあるのかを見極めることにつながりました。

受験まで2ヶ月を切り、生徒の真剣さが伝わってきました。

学生の授業の質も向上してきました。さらに分かりやすい授業にするためのアドバイスをを行いました。

2018. 2. 11 ●タダゼミ支援

・中学生に対し、社会の授業を実施

⇒「社会の予想問題」の解説を通して、どのように学習すれば社会の得点力が上がるのかを伝えました。

2018. 3. 4 ●タダゼミ支援

・中学生に対し、数学の授業を実施

⇒「模試の解説授業」を実施し、限られた試験時間内でより高い得点を取るにはどう解き進めるべきかを説明しました。

試験まであと2日、1点でも多く得点するための方法に、生徒は真剣に聞き入っていました。

・「入試に向けての心構え」を講演

⇒本番で実力を出し切るための心構えを伝え、エールを贈りました。

2018. 3. 25 ●キッズドアとの打ち合わせ

・今年度の振り返り、来年度の方針について打ち合わせと意見交換を実施

⇒今年度の問題点を振り返り、その反省を来年度に活かしていくことで方針を決めることができました。

⇒合格できる力を養成する活動になってきていることが確認されました。

⇒年間の活動をしっかり決めて、より効果的な学習支援にしていくことで、両者が協力し合っていくことになりました。

⇒卒業した生徒や保護者から多くの感謝の言葉が届いていて、この活動が復興の一翼を担っていることを実感しました。

⇒今年度の支援に対して感謝の意が伝えられ、来年度も引き続き支援してほしいと強く要請されました。

⇒この活動を必要としている生徒がいる限り、中学生の学習支援は続けて行きたいとの心を新たにしました。